

## インターバンクの声（2016年1月29日）

前日、米連邦公開市場委員会（FOMC）の声明発表後には、対ユーロ、豪ドル、円などの主要通貨に対してそれぞれ違った反応を見せていたドルだったが、昨夜の米耐久財受注の発表後はドルの下げ足が強まったように見えた。数字が大きくぶれる元になる航空機を除いた非国防資本財受注（コア受注）が前月比で4.3%も減少、全耐久財受注でも5.1%の減少と昨年8月以来の大幅減少で、速報値も下方修正されたとあっては市場も敏感に反応せざるを得なかったようだ。さらに、耐久財受注の発表後にロシアのエネルギー相が、「OPEC 総会で5%の減産が議論される」との発言があり、WTI 原油が1バレル35ドル近くまで上昇したこともドルに微妙な影響があったかも知れない。ただし、このロシアのエネルギー相の発言は OPEC 参加国関係者から直ぐに否定されていたようだ。もっとも米株式市場は、この原油価格の上昇によるエネルギー関連株の上昇や、ハイテク企業の好決算などもあって反発した。市場のセンチメントもまだ一定ではなく、今日の日銀の決定やニューヨーク時間に発表される米国の第4・四半期の GDP 速報値が大いに気になるところだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。